

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>「質実剛健」の伝統訓を基調にして、互いに切磋琢磨し、人間性豊かで社会的に自立した職業専門人の育成に努める。 スローガン ～感動あふれる学校づくり～ 生徒が互いに協調し合いながら、自らが主体的に学習・部活動・進路・競技会・学校行事等において高い目標に挑戦しながら感動を共有することができ、明るく元気で活力ある学校づくりを目指す。 ふるさとに誇りを持てるよう、地域社会との連携を深めながら、地域の活性化に貢献できる人材の育成に繋がる指導を充実させ、生徒の達成感・充実感を高められる学校づくりを目指す。 教職員が健康でいきいきと働き、生徒一人一人としっかりと向き合いながら感動を共有することができる学校づくりを目指す。</p>	
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇教務部 教育課程・学習指導</p>	
<p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>◇教育課程 ・テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。 67.1% ・先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。 69.4% ・ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。 64.1% ◇学習指導 ・熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い。 87.1% ・専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。 84.8% ・授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。 79.2%</p>	
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>① 授業規律の徹底 ② 「確かな学力」を育むため、探究的な学びやICTを活用した学習活動の充実に向けた授業改善の推進 ③ 一人一人が主体的に学ぶ力を身に付けるための、指導方法や評価の工夫改善を行う。 ④ 「読む力」を向上させるための指導を充実させる。 ⑤ 若手教員の育成</p>	
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>・教育課程委員会 ・教科会における授業改善に関する取組情報の共有化 ・校内研修担当者を中心とした研修組織</p>	
<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 積極的なICTの活用による授業の効率化 (2) 読書週間 (3) 若手教員対象の研修</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 生徒の学習姿勢 (2) 公開授業 ・学習指導要領改訂に伴う授業改善 ・ICT機器の活用状況 (3) 研修後のアンケート</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p> <p>・ICT研修の実施 ・活用しやすいICT環境の整備 ・授業参観と意見交流 ・若手勉強会の実施</p>	<p>9 評価視点</p> <p>①生徒の学習姿勢および組織的な取組みができたか。 ②ICT機器の利用率。 ③研修参加者の意識の変化はあったか。実際に行動できたか。</p>	<p>10 評価</p> <p>A (B) C D A B (C) D A (B) C D</p>
<p>11 成果・課題</p> <p>○ICT機器の利用が徐々に当たり前になってきた。 ○公開授業週間を実施し、互いの授業を参観し授業評価をシェアすることができた。また、生徒による授業評価より、指導方法や評価方法の工夫改善に努めることができた。 ○若手教員対象の研修会を実施し、若手教員同士が悩んでいることや授業で行っている工夫などを共有することができた。 ▲座学でのプロジェクトの利用は日常となりつつあるが、メタモジの利用率はまだ低い。若手教員から徐々に利用されつつあるので、今後も研修などを行い、利用率をあげていきたい。 ▲コロナ禍のような状況だからこそ、生徒が自ら学ぶ姿勢を育てていかなければならない。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・若手教員対象の研修会は継続して行っていく。 ・タブレット用のスタイラスペンを購入し、授業でのタブレット利用をより常態化させていく。</p>		

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部 生徒指導・教育相談・特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	◇生徒指導 ・人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。 87.6% ・いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 78.2% ・体罰はない。 85.3% ・通信やホームページ、一斉配信メールサービス（すぐメール）等を用いて、様々な情報を速やかに伝えている。 86.6% ◇特別活動 ・外部講師の講演や様々な体験活動等の授業以外の学習機会や学校行事の有無、又はその実施方法等について、生徒の安全を最優先とし、コロナウイルス感染症対策を講じて適切に計画している。 81.5% ・ホームルーム活動の時間は、今後の自分にとって意義のある内容になっている。 79.0% ・部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。 83.3% ・生徒会活動が活発である。 64.6% ・ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。 53.7%	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 各学年団と協力し、「社会人として通用する商業生を育てる」取り組みを行う。 ② 教育相談の充実と外部教育相談機関との迅速な連携を図り、スピード感をもって事業の対応に努める。 ③ 生徒に有用となるアルバイトの体制へ見直す。 ④ L G B T Qに対応できる制服の検討をする。 ⑤ 生徒会及び各種委員会を活用し、学校を盛り上げられるような取り組みを行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年団、特別活動、生徒会との連携と学校行事の見直し ・教育相談体制の充実とケース会議等の素早い対応	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 社会人として通用する商業生を育てる取り組み (2) 教育相談の充実と外部相談機関との迅速な連携 (3) アルバイトルールの見直し (4) 制服の見直し (5) 生徒会及び各種委員会を活用し、学校を盛り上げられるような取り組み	(1) 常識ある身だしなみ、年上とのコミュニケーション能力、集団生活への規範意識の向上 (2) 困り感がある生徒への声かけ等の対応と情報共有 (3) より実態に即したアルバイトルールの見直し (4) 創立100周年を見据えた、社会人として通用する中津商業生を意識した制服の検討 (5) 学校行事、各種委員会、MSL活動を生徒会中心に企画運営させ達成感を得られる教育的支援	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・年間5回の頭髪服装指導と事後指導の徹底、身だしなみを自己管理できるようにするための対話指導 ・毎週実施の生徒指導部会、各学年会、不定期での教育相談会での情報共有 ・生徒会中心での学校行事や各学年会主催のLHRを上手く連携させ、生徒同士の横の繋がりを意識した教育的支援	①身だしなみの再発防止ができていないか ②教員による情報共有ができ、意志統一が図れているか ③さまざまな行事において、生徒会、各HR委員各種委員会等で生徒による主体的な活動ができていないか	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	○学年を中心に日頃から身だしなみ等が気になる生徒に対して、対話を心掛けた指導により、できるだけ生徒本人が納得し、自己管理することができるよう、身だしなみへの規範意識を高めることができた。 ○各学年、教育相談、特別活動課を中心に、生徒に「自他の存在を認め合い尊重する」という仲間意識や集団生活等での意識向上を踏まえ、社会人として通用する常識を身に付けられるような取り組みを推進することができた。 ▲一方で、社会人として通用する一般常識、マナー・モラルアップへの意識が不十分であり、自分で気づいて修正できる能力の向上が必要	
12 来年度に向けての改善方策案	・学校行事等や生徒指導的な事案（例えば、身だしなみ）を、生徒が自分（達）で「自主性」や「社会性」を意識し、考え、行動できるよう、教師側の共通理解を持ち、「社会人として通用する商業生の育成」を見据えた学校生活を経験させられる取組を充実させたい。	

2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。 75.2% ・生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。 77.0%	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① キャリア教育の充実 ② 生徒が自ら希望する進路を実現できるよう、確かな学力や専門的な知識、技能、表現力を身につけるための指導の充実 ③ 生徒の適性に沿った進路先の確保 ④ 難易度の高い大学に挑戦し、合格できる実力を養成するための指導の充実	

5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・職業指導課、進学指導課 ・進路指導委員会	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 進路講話をタイムリーに実施できるよう外部と連携し、組織的に取り組む (2) 全生徒対象に校内模試や面接指導を実施する (3) 全学年で進学ガイダンスを実施する (4) 国公立や難関私立大学への進学対応に取り組む (5) 継続事業の「キャリアパスポート」に取り組む	(1) 講話の実施状況とアンケート実施 (2) 面接指導やSPIテスト等の企画・提案状況 (3) アンケートの実施、保護者の参加状況 (4) 小論文指導や大学見学等の実施状況 (5) 企画・進捗・完成度・実施状況	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	○進路ガイダンスの実施について ・1年生は10月に大学・短期大学・専門学校23校、分野ごとの説明会を実施 ・2年生は11月に企業9社と市役所、卒業生10名による講演と各ブースでの説明会を実施、進学は24コースによる体験実習等を実施 ・3年生は8月に外部講師による就職面接指導や進学小論文指導などを実施 ○面接指導について ・2年生は2月に進学については中京学院大学から、就職については専門学校より講師を招聘して実施 ・3年生は6月と9月（就職希望者）と10月（進学希望者）に実施 ○難関校への進学希望者への取組 ・基礎学力テストや外部模試の実施（2年生6回、3年生4回） ・資料頒布会の実施 ○継続事業への取組 ・学年会と協力し、「キャリアパスポート」（進路ノート）の活用	①生徒アンケートの実施と分析は出来たか。 ②大学、卒業生、関係業者等との連携をはかることが出来たか。 ③進路諸行事の企画と提案状況 ④インターンシップ実習先の確保と生徒アンケートの分析 ⑤「進路ノート」の活用	A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D
11	成果 ・課題	○3年生就職希望者に対しは、コロナの状況下ではあったが、自分に合った進路選択を行わせ、ミスマッチや不本意入社等による離職者を出さない指導の充実を図ることが出来た。 ○3年生進学者についても現状に甘んずることなく、一段と高い目標に挑戦する意識づけと個々に対し、いろいろな入試方法や学習方法を説明し、補習等により入試対策を実施した結果、難関校に挑戦、合格することが出来た。 ▲コロナにより計画していた進路行事を計画通り実施することが出来なかった。 1年生…2月インターンシップ 2月合同企業説明会 3年生…5月学校見学	総合評価 A B C D
12	来年度に向けての改善方策案	・小論文指導について、今年度から全職員での指導体制を目指したが、来年度は教員研修を計画しさらに推進する。 ・看護・公務員希望者への指導が一部の教員の負担になっており、指導方法の見直しと改善を図る。 ・進路関係行事については学年会と連携した組織的な運営を行うとともに、行事の精選についての検討を行う。	

2	評価する領域・分野	◇商業教育 教育課程、学習指導、地域との連携等
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・課題研究の内容は自分にとって有意義である。（3年生のみ） 69.9% ・先生は、社会人として通用する挨拶や言葉遣いなど、ビジネスマナーの指導に熱心に取り組んでいる。 83.5% ・先生は、各種検定・資格取得の指導に熱心に取り組んでいる。 92.2%
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 確かな学力育成を目指す ② 心豊かな人間形成を目指す ③ 地域に必要とされる学校を目指す
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・各コースに人員を割り振り、コース長中心に運営する。 ・コース長会議や商業会議の実施（月1回）
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
	(1) 基礎基本の定着化と専門性の深化 (2) 各種検定、高度資格、各種競技会へ積極的挑戦 (3) 学力向上を支援するための、教育技術の向上 (4) 基本的なモラルとビジネスマナーの定着	(1) 各種検定試験の合格者数や合格率各種競技会の結果 (2) 保護者や外部の評価 (3) 対外活動事業の成果 (4) 生徒の学習に取り組む姿

(5) 意欲的、自主的、自律的な生活姿勢の育成 (6) 開かれた学校作り (7) 教育環境や設備の充実		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・全商検定試験などの合格者や合格率及び各種競技会での成果 ・授業規律の徹底、情報機器などの使用状況の把握 ・外部との連携事業、販売実習、出前授業、講演会等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①各コースの検定目標や競技会での成果 ②授業時の挨拶・態度・授業終了後の教室状況 ③対外活動への参加状況・ 	<ul style="list-style-type: none"> (A) B C D A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○9月の一ヶ月授業がなかったことで、授業進度の不安はあったがオンラインの活用等によってカバーができた。 ○継続した中学生への出前授業の実施。 ○商業系部活動の競技会等での活躍。 ○今年も多くのイベントが中止となっている中で、販売実習などが行われてはいない。しかし、各コースで工夫した形で外部との連携を行って探究学習へと進んでいる。WEBマーケティングの分野にも学習を広げられているので、販売の場を広げていきたい。 ○昨年に続き、厳しい状況の中でも、全商1級三種目以上取得者が微増した。 ○WEB受験などが始まった影響もあり、日商簿記2級や日商リテールマーケ2級、基本情報などの高度資格合格者が増加した。 ○地元企業等の外部講師を招いた授業を開催し、地元企業と連携し、生徒の地域理解を深めた。 ▲授業内でのタブレット等の活用が、まだまだ進んでいない。 	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した取り組みが増えており、課題研究の内容が変化している。今後も、探究型の授業を実施し、地域に貢献できる活動を行う中で、生徒の意欲や自主性を育てたい。 ・ICT環境が整備され、それを活用した授業展開が行われ始めているが、教員によって差が出ている部分があるので、研修等を行い充実した授業ができるよう研修等を実施したい。 ・スマート専門高校事業で整備された施設を最大限生徒の活動に活用できるよう、外部との連携を行って授業を展開していきたい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年7月9日、11月18日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの多くの項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」が前年度より減少しているが、コロナ禍において行事が延期または中止や変更といったことにより、今年度に影響されているが、「本校に入学できてよかった」と回答する生徒が91.9%と昨年度よりも増加しているのは、学校に対する満足度が高いことがうかがえる。 ・生徒対象アンケートの働き方改革に関する項目については、「働き方改革」が何を指しているのか、生徒たちの考えと学校側の考えが違うのではないかと。 ・高校生活に満足して卒業できる生徒が少しでも増えてほしい。 ・ボランティア活動とは違うが、少年野球などで中津商業高校の生徒と交流することにより、中津商業高校を目指す子供が増える。また、地域からやってほしいという要望がある。 ・ふるさと教育の取組について、大学と地域が結びついて連携しながら地域課題を解決するという取組を行っている。高校生も巻き込んで、地域課題の解決をふるさと学習と結び付けて行えるとよい。中津川市主催の地域学連携の成果発表会にも参加してほしい。 ・ふるさと教育の取組について、先生方の努力や、学科の特色など、昔とずいぶん変わってきたのが伺える。ネットショッピングやAIチャットボットについて学べることは、新しい視点で取り組んでいるのが要因かと思う。今できる最前線のことを取り入れて社会に貢献できる生徒を育ててほしい。 ・生徒はコミュニケーション能力が高く、当たり前のごとの様に挨拶などができるため、企業としてもありがたい。ICTの活用は先生方が考えていくと思うが、生徒にどう使いたいのか考えさせるのも良いのではないかと。DXなど発展的に使えるようにしてほしい。 ・外部の新鮮な空気を取り入れて学校運営をしていくことがすばらしい。コロナ以前は海外研修が行われていたようだが、コロナの期間で国際交流ができないのは残念である。Web見学ができればよいのではないかと。スマート専門高校の整備は楽しみである。 ・1「ふるさと教育」関連事業の中間発表、2スクール・ポリシー、3学校評価アンケートの報告と改善点、4校則の見直しについてであった。スクール・ポリシーについては学校案が承認された。 ・ふるさと教育の関連事業の中間報告は、コース別に生徒の発表を行い、どの事業についても地元企業や公的機関など、地域の方の協力のもとで実施していることを紹介した。 ・本校の100周年の歴史について、生徒が学ぶ機会を作り、生徒が将来を考えるきっかけにしていきたい。
--